

① 研究課題名：肺癌手術における左肺静脈共通幹の頻度と胸部 CT 所見に関する後向き観察研究

② 研究の目的：

名古屋市立西部医療センター中央放射線科では名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫外科学が行う①の研究に参加しています。

手術を行う場合、血管誤認を起こさないことが重要となります。血管の走行は人によって様々ですが、特に異なる場所に血管が走行している場合があります（走行異常といいます）。肺の手術においては、左肺静脈共通幹※1という走行異常をあらかじめ知ることができると、手術時の血管誤認の危険性が下がります。しかし、現在のところ、手術前に左肺静脈共通幹を知る方法はありません。そのため、本研究では、肺癌のため左肺の区域切除※2以上の肺切除を行った方の医療記録（胸部 CT 画像と手術記録）から左肺静脈共通幹があったかどうかを調べ、その頻度を検討します。また、術前の胸部 CT 画像から左肺静脈共通幹の位置を診断できる方法を模索します。

※1：左肺静脈共通幹とは、肺血管の走行異常のひとつ。左肺静脈が複数合流する部分が、通常とは異なる部分に存在するもの。通常とは異なる部分となるため、手術時に血管誤認を起こす原因となる。

※2：区域切除とは、肺癌の標準的な手術よりも切除部分が小さい縮小手術の一種で、腫瘍がある部分の肺の「区域」を切除する手術のこと。

③ 研究期間：2019年 3月 31日まで

④ 研究代表者及び研究実施施設一覧

研究代表者：名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫外科学 講師 横田圭右

研究実施施設：名古屋市立大学大学院医学研究科、鈴鹿中央総合病院 呼吸器外科、
トヨタ記念病院 呼吸器外科、名古屋市立西部医療センター 中央放射線科

⑤ 研究の対象：

西部医療センターにおいて、2013年1月1日から2017年12月31日の5年間に原発性の左肺癌に対する区域切除以上の手術を行った方で、術前に胸部造影 CT 検査（1mm スライスで撮影）を施行した方全てを対象とします。

⑥ 調査項目：

- a) 基本情報：胸部 CT 画像撮影時の年齢、性別、手術中に左肺静脈共通幹を同定していたかどうかの有無
- b) 胸部 CT 画像データ

⑦ 研究の方法：

研究担当医師が、対象となる方の診療録より「⑥調査項目 a)」の情報を調査し、「症例調査票」に記入します。症例調査票及び胸部 CT 画像データ（「⑥調査項目 b)」）は、名古屋市立大学大学院医学研究科 腫瘍・免疫外科学（研究代表者：横田圭右）へ提供され、集計・解析されます。

⑧ 研究成果の公開

日本呼吸器外科学会で公表することを予定しています。

⑨ 個人情報の保護

情報及び画像を提供する際、個人を特定する情報（あなたのお名前、ID、住所等）は削除し、あ

あなたのカルテ番号とは異なる新たな番号を付番して、その番号を用いて症例調査票や画像データが作成されます。このため、個人情報外部に漏れることはありません。また、研究結果が公表される際も、個人を特定できる情報は一切含まれません。

この研究に参加されたくない（あなたのデータを使ってほしくない）場合は、医療者にその旨をお伝えください。

⑩ 利益相反

本研究は資金提供を受けていません。したがって、本研究に係る利益相反はありません。

⑪ 問い合わせ先

研究事務局	診療科	研究責任者
名古屋市立西部医療センター 住所：〒462-8508 愛知県名古屋市北区平手町1-1-1	中央放射線科	原 眞咲 TEL：052-991-8121（代表）